ワンポイント

稲作

水管理を徹底し、初期生育の促進と病害虫防除の実施！

秋田地区営農センター　関口　直樹

●分げつを促進させる水管理

6月の水管理は目標茎数を早期に確保することが重要です。活着したら（苗の活着は通常4～5日で、気温、水温とも高いほど早くなります）分げつの発生を促進するため、浅水管理（2～3cm程度）とし水温と地温を高め日気温較差を大きくすることが大切です。分げつの発生は日平均水温23～25℃程度であり日較差の大きいことが大切です。（低温、強風のおそれのある時は昼間止め水、夜間深水。高温対策はかけ流し。）

●中干しの実施について

中干しの実施期間は7～10日、圃場に軽く亀裂が1～2cm入り、足跡がつく程度とします。（過度の中干しは、根を傷め稲体の衰弱につながります。）ただし、幼穂形成期（7月15日頃）前には終了するように行ってください。中干し終了後は、すぐに湛水状態に戻さず間断かん水につとめてください。

6月下旬までに下記の目標茎数と同じ茎数を確保したら中干しに入る		
	70株植え	60株植え
あきたこまち	21本／株 程度	24本／株 程度

中干しの効果

①無効分げつの抑制
②根の健全化
③過繁茂、倒伏防止
④田面を固くする

●葉いもち病防除

育苗期防除及び葉いもち予防剤のオリゼメート剤を実施した圃場でも定期的に圃場を見回り、今後の発生情報に注意してください。もし発生が見られた場合、治療剤と予防剤の混和剤（ブラシン剤等）で予防を行うようお願いします。

●斑点米カメムシ対策

畦畔、農道、休耕田での草刈は6月上旬から稲が出穂（あきたこまちで平年8月3日頃）する10～15日前までに実施するよう心がけましょう。また、斑点米カメムシ類は水田内のイネ科雑草やホタルイ類の穂に誘引され、水田内に侵入する特性があります。本田内外の雑草をしっかり抑えることが斑点米カメムシ類の被害防止の重要ポイントになります。初期、一発除草剤で対処しきれなかった雑草については、中後期除草剤を使用し防除を実施しましょう。

薬剤名		使用量	対応雑草	使用時期	使用方法
レブラス	粒 剤	1kg/10a	ノビエ、ホタルイ、オモダカ他	移植後14日～ノビエ4葉期（収穫60日前まで）	湛水散布（水深3～5cm）
クリンチャー	1キロ粒剤	1kg/10a	ノビエ	移植後7日～ノビエ4葉期（収穫30日前まで）	湛水散布（水深3～5cm）
		1.5キロ/10a	ノビエ	移植後25日～ノビエ5葉期（収穫30日前まで）	湛水散布（水深3～5cm）
	E W	100ml/10a	ノビエ	移植後20日～ノビエ6葉期（収穫30日前まで）	湛水散布（水深3～5cm）又は 落水散布
バサグラン	粒 剤	3～4kg/10a	ホタルイ、オモダカ、シズイ、クログワイ他	移植後15～55日（収穫60日前まで）	落水散布 又は ごく浅く湛水して散布
	液 剤	500～700ml/10a	ホタルイ、オモダカ、シズイ、クログワイ他	移植後15～55日（収穫50日前まで）	落水散布 又は ごく浅く湛水して散布
クリンチャーバス	ME液剤	1,000ml/10a	ノビエ、ホタルイ、オモダカ他	移植後15日～ノビエ5葉期（収穫50日前まで）	落水散布 又は ごく浅く湛水して散布

★今月のあなたの運勢 2018年6月★ 獅子座（7.23～8.22） 対人運が華やぐ時期です。飲み会や旅行など、レジャーに誘われたら気軽に参加すると楽しく、うれしい結果に